

奥羽大学歯学誌の役割

山 森 徹 雄

私は平成7年より本誌の編集に携わってまいりました。また平成12年より編集担当理事を拝命し、その故あって今回、巻頭言の執筆依頼をいただいております。したがって、本欄では本誌の役割や展望について私見を述べたいと思います。

まず本誌の役割を考えてみますと、第一には会員の研究活動を発表する場となり、これを活性化することが挙げられます。学内にあっても他講座での研究活動の詳細は理解していないことが多いため、本誌に掲載された論文からその内容を知り、研究活動における連携が得られることもあります。そのため編集委員会では、年間約20回の委員会を開催して4号の雑誌を発行してきました。さらに私が編集委員を担当してからの活動として、五十嵐、氷室両委員長の元でフロッピー投稿による投稿料の軽減や、投稿要領の改訂など、投稿を促進すべく環境整備もなされてきました。また今年度からは投稿論文の種類に『教育』というカテゴリーを追加し、より多くの論文が投稿されるような体制作りも実施されております。編集委員を担当なさった方はご存じですが、年4号の編集の傍らで歯学誌の改革を進めるためには個々の委員に求められる実務は必然的に多くなります。このような歴代の委員各位による努力により、投稿論文数を確保し発行を継続してきたことで、この第一の目的は達成されていると思われます。

本誌のもう一つの大きな役割として、本学（会員）による研究活動を外部に知らせ、学術的な発展に寄与すると同時に本学をアピールすることがあります。これまでは雑誌という媒体を用いてきましたが、今後は発表の場としてインターネットを無視することはできません。すなわちホームページの活用やオンラインジャーナル化が不可避と考えられます。現在、編集委員会では高橋委員長の元、情報収集や下準備を行っています。著作権に関する問題や倫理面での問題を解決するため、投稿要領の改訂さらには誓約書の添付などを導入し、学術雑誌を取り巻く社会の変化に対応しながらオンラインジャーナル化を実施することになっても困らないように基盤整備を進めております。一方、外部へアピールするという観点からはもう一つ重要な事項があります。それは掲載論文のさらなる質的向上という点です。現在、私は日本補綴歯科学会雑誌の編集委員も担当しておりますが、他の専門学会誌と同様に、1編の論文に対して複数の査読者が様々な面から指摘し論文をブラッシュアップして行きます。文書の上で厳しいやり取りがなされることもありますが、編集過程を経て理解しやすい文面になるばかりでなく内容の向上が図られることも少なくありません。しかし、このような査読を本誌で実施するには少々問題があります。すなわち現在は査読を編集委員のみが担当していることから、多く

の場合には、専門分野の著者が作成した論文を、それ以外の分野を専門とする委員が査読することになるためです。これを解決するために外部査読者の起用も考えられますが、その場合には事務手続きが複雑になり、編集に長時間を要することになるため現実的ではありません。したがって、現時点で考えられる最も有効な方法は、投稿の時点で論文の完成度を高めていただくことになります。この場をお借りして会員各位にお願い申し上げます。

『巻頭言』といいながら、まるで編集後記のような内容になってしまいましたが、編集に携わってきた一人の担当者として、本誌がどのように本学会ならびに本学の発展に寄与できるかという観点から私なりの考え方を述べました。組織を創るのは人材であると思います。今後本学がさらなる飛躍を遂げるためには、意欲のある優秀な人材を大勢抱え活動性を向上させる必要があるでしょう。それには教育、臨床はもとより研究活動も活性化することで大学が魅力を増し、多くの卒業生が本学での研修や活動を望むようにならなければなりません。学内における活動の活性化という点から奥羽大学歯学誌が本学の発展に寄与することを願いつつ、編集作業を遂行してゆきたいと考えております。

(奥羽大学歯学会 編集担当理事，歯科補綴学講座助教授)